

後援会だより

No.24-25 平成28年 3月

事務からのお詫び

事務処理のミスによりデータの消失等があり、2年分（No.24・25）一緒のだよりとなってしまいました。誠に申し訳ありませんでした。
次号（No.26）は記事を充実させて、5月に発行いたしますのでよろしくお願いいたします。

目 次

平成25年度 卒業・修了祝賀会祝辞	後援会会長 丹羽 誠	3
平成26年度 卒業・修了祝賀会祝辞	後援会会長 丹羽 誠	4
祝賀会 卒業生代表謝辞	理学療法学専攻 新田 潮人	5
退職職員から 私からのお願い	看護学専攻・教授 浅沼 義博	6
退職職員から 「いのち・やすらぎファーム」の米づくり	理学療法学専攻・教授 進藤 伸一	8
国際交流委員会の活動報告	委員長 浅沼 義博	9
ブータンでの見聞から得た学びと今後の支援の方向性	医学系研究科保健学専攻 吉田 倫子	11
王立ブータン大学健康科学院の先生方の茶の湯体験	看護学専攻 山口 典子	12
ブータン短期研修	医学系研究科保健学専攻 工藤 直子	15
看護学専攻の臨地実習について-実習で育みたいこと-	看護学専攻実習委員長 伊藤登茂子	16
理学療法学専攻の臨床実習について	理学療法学専攻 佐竹 将宏	17
作業療法学専攻の総合臨床実習を終えて	作業療法学専攻 石井奈智子	18
看護学専攻の動向	看護学専攻主任 篠原ひとみ	19
理学療法学講座の動向	理学療法学専攻主任 工藤 俊輔	20
作業療法学専攻の動向	作業療法学専攻主任 石川 隆志	21
学生からのメッセージ		
・秋田大学で学び成長したこと-1年次と比較して-	理学療法学専攻 4年次 佐藤 瑞騎	22
・4年間を振り返って	作業療法学専攻 4年次 小西 行篤	23
新任教員の人事異動		24

平成25年度入学試験について	入試委員長 湯浅 孝男	25
平成25・26年度秋田大学医学部保健学科入学試験実施状況		26
平成25・26年度卒業生進路状況		27

サークル活動

・「年老いた沼」と女神 ～思い出の山旅 その5 雌阿寒岳～	理学療法学専攻 岡田 恭司	27
平成25年度後援会 決算書		30
平成26年度後援会 決算書		31
平成27年度後援会 予算書		32
平成26年度後援会役員・総代名簿		33
平成27年度後援会役員・総代名簿		34
大学の行事等（平成24年4月～平成25年3月）		35
後援会会則		36



平成25年度 卒業・修了祝賀会謝辞

後援会会長

丹羽 誠

秋田大学医学部保健学科卒業生の皆様、医学系研究科保健学専攻修了生の皆様、そしてご父兄の皆様、誠にありがとうございます。心よりのお祝いを申し上げます。ご指導下さいました先生方、職員皆様には心よりの御礼と、敬意を表します。有り難うございました。

後援会会長の丹羽でございます。私の子どもはまだ作業療法学科3年で、この席にはおりませんが、『話は短く』とくぎをさして参りました。私自身、県内市中病院の外科に勤務するものでございます。34年前、県民会館で卒業式を致しました。現場にいるものとして、また、親としての思いから、祝辞を申し上げます。専門職になる皆さんにエールを3つ送らせて頂きます。

患者さんから学んで下さい。

医療者は、現場では専門職です。何を困っているかを聞き出し、観察し、評価し、計画行動する、これらが妥当であったかは、患者さんから教えてもらいます。先輩から指導され、書籍を読んで勉強もしますが、やはり患者さんから教えてもらうしかないので。そうして腕を上げ続けてください。大学で学んだことは、始まりです。これからも学び続け、進歩を続けて下さい。

報告、連絡、相談をする。いわゆるハウ・レン・ソウです。

同職スタッフや他職種スタッフ、勿論医師に

対してしっかりハウ・レン・ソウができて初めて専門職としての責任を果たせるのです。食材としてハウレン草はあまりおいしいとは思えませんし、報告連絡相談も面白い話ではないでしょう。しかし、社会で生きていくため、特に皆さん自身を守るために、必要なことです。トラブルがあった際に、私たちは個人で責任をとれません。組織として対応し、組織の管理者が責任を取ります。専門職としての責任を果たし、自分自身を守るためにも、ハウ・レン・ソウをきちんと出来るようにして頂きたいのです。

自立して、親離れをして下さい。

自立、自ら立ち、自ら律する。そうして、保護者から、親から離れて行って下さい。親の方にも子離れが必要です。親子でお互いに感謝し、お互いに敬意をもって配慮が出来る関係になる。そのためには、親子共に努力、進歩が必要です。すでに親離れ子離れが済んでいる方々には余計なことを申しました。

以上3つのエールを送りました。

最後に、社会人大学院生として修了され方々には、特別な敬意を表したいと思います。皆様は今後リーダーとして更なるご活躍をされることを信じています。

卒業生の皆様、ご父兄の皆様、そして医学部保健学科のこれからのご発展を信じ、お祈りいたします。



平成26年度 卒業・修了祝賀会謝辞

後援会会長

丹羽 誠

保健学科卒業生の皆様、医学系研究科専攻修了生の皆様、本日は誠にありがとうございます。またご家族皆様にも心よりのお祝いを申し上げます。そしてご指導下さいました先生方、職員皆様には心よりの御礼申し上げます。有難うございました。4年前、あの大地震で、入学式は行われませんでした。痛みを覚えながら、自分の役割を必死に考えながら努力された皆さますべてに、改めて敬意を表します。

今日午前中の秋田大学卒業式でのことです。医学部の医学科・保健学科二つの後援会を代表して 私は式の壇上に上がって席に座るように指示されました。昨年までは医学科の後援会会長がいつも上がっておられたものです。今年から、保健学科後援会長と、医学科後援会長と が毎年交互に上がることになったそうです。今の時代に見識を示された大学に敬意を表したいと存じます。

私は、県内市中病院の外科に勤務するものでございます。現場にいるものとして、皆さまにエールを2つ送らせて頂きます。

報告、連絡、相談をする。いわゆるハウ・レン・ソウです。

多くの方は、組織の中で専門職として働くでしょう。同僚、また他の職種スタッフ、勿論医師に対してしっかりハウ・レン・ソウができて 初めて専門職としての責任を果たせます。

ハウ・レン・ソウは社会で生きていくため、だけではなく皆さん自身を守るために、必要なことです。トラブルがあった際に、私たちは個人で責任をとれません。もちろん、名誉にかけて挽回したいでしょう。しかし、個人は責任をとれないのです。組織の管理者が責任を取ります。管理者は責任を取るためにいるのです。

組織として対応するために、迅速な報告が必要です。皆様が専門職としての責任を果たし、自分自身を守るためにも、ハウ・レン・ソウを頑張るようになって頂きたいのです。

ただ、それは簡単ではありません。報告するポイント、相談するタイミングなど、スキルと勇気を必要とします。私自身、適切なハウ・レン・ソウができるよう、日々自覚して努力をしています。

祈り、求めてください。

このような 祈り があります。

「神よ、われらに与えたまえ
変え得ぬことを 受け入れる 平静さを
変えるべきことを 変える 勇気を
そして その二つを見分ける英知を」
これは、「平静を求める祈り」 ラインホルト・ニーバーという牧師の言葉です。

変えられないことを受け入れる平静さ serenity、変えるべきことを変える勇気 courage、その二つを見分ける英知 wisdom。

皆さんは、今後いろいろな試練に出会いま

す。見たくない事実に向き合わなければならぬ試練が、それこそ毎日あるでしょう。震災のような理不尽な試練もあるかもしれません。

試練の時、変えられないことを受け入れる平静さ、変えるべきことを変える勇氣、その二つを見分ける英知を与えられるよう祈り求める。「祈り求める」行いとは、勉強すること、仕事そのものや、コミュニケーションであったりすると思います。どうぞ謙虚に、熱心に祈り求め、進歩し続けて頂きたいのです。

以上、2つのエールを送らせていただきました。

大友先生、40年前に私は大友先生からご教授を頂きました。お役目を立派に担われた大友先生に、後援会長として心からの御礼と敬意を表します。ありがとうございました。まだまだお元気でご活躍ください。

卒業生・修了生の皆様、ご父兄の皆様、そして医学部保健学科のこれからのご発展を信じ、お祈りいたします。

本日は誠にありがとうございました。

祝賀会 卒業生代表謝辞

平成26年度卒業生代表 理学療法学専攻
新 田 潮 人

本日は私たち第九期生卒業生のためにこのような心のこもった式典を催していただき誠にありがとうございます。

ご多忙の中ご出席下さいましたご来賓の皆様、学科長の 大友和夫先生をはじめ諸先生方並びに関係者の皆様に卒業生一同心から御礼申し上げます。

思い起こせば私たちの入学式は2011年の東日本大震災の影響があり行われませんでした。そのため入学当初は新しく始まる生活に若干の不安がありました。しかし、大震災の影響をはね返す様に素晴らしい仲間恵まれ、充実した大学生活を送ることができました。

一年次には専門科目だけではなく手形キャン

パスで幅広い知識と教養を身に付けることができました。また初年次ゼミでは作業療法士や看護師など他の医療関連職種との連携の重要性を学ぶことができました。一年次では五日間の病院実習もあり、早くから臨床の現場を知ることができました。

二年次には先生と一緒に患者様を目の前で評価する理学療法技術実習があり、手とり足とり教えていただきました。実際に患者様と関わり責任ややりがいを感じる中で理学療法とは何かを学びました。

三年次では理学療法セミナーをはじめとした実践的なグループワークが多くあり、ゼミ仲間と役割分担をしながらチームワークを高めることができました。

四年次では総合臨床実習や卒業研究、国家試

験など新たな課題が増えましたが、多くの方々に支えられながら何とか乗り越えることができました。

私たちは互いのことを思いやり、助け合うことができる友人に恵まれ、とても幸せな学生生活を送ることができたと思います。

また臨床実習施設の諸先生方からも数多くのことを学ばせていただきました。

さらに、勉強だけではなく私生活も充実した四年間でした。アルバイトやサークル活動、大学祭、旅行や飲み会など大学生活でしかできない貴重な体験をすることができました。時には実習や卒業研究などで忙しく大変なこともありましたが、とても充実した大学生活を送ることができたと思っています。

卒業後の進路はそれぞれ異なりますが、大学生活で得た多くの学びを今後の私たちの人生に活かしていきたいと思っています。社会に出るからはこれまで学んだ知識や経験をもとに生

涯にわたって学習を続け、自己の向上に努めて参ります。

入学から今日に至るまでの間、私たちが暖かく見守りご指導くださった先生方をはじめ、お世話になりました全ての方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

そして、何よりこれまでの大学生活を無事に終えることができたのは、常に私たちを支えここまで育ててくれた父母、家族のおかげです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これからもどうぞよろしくお願ひ致します。

最後となりますが、秋田大学医学部保健学科のさらなる発展と諸先生方及びご臨席された皆様のご健康、ご活躍を祈念し、卒業生一同を代表して謝辞とさせていただきます。

四年間ありがとうございました。

平成27年 3月22日

〈退職教員から〉

私からのお願い

昭和48年（1973年）に東北大学医学部を卒業後41年間医療の世界に携わってきた。特に平成12年（2000年）に秋田大学第1外科から秋田大学医療技術短期大学部に転任後は、本学の4年制への移行と大学院開設というmilestoneの渦中にいた。自分に与えられ

看護学専攻・教授

浅沼義博

た役目を果たすべく精一杯努力したつもりだが、やり残したことも少なくない。それらのうちのひとつを私からのお願いとしてここに記したい。

〈博士後期課程の開設に関連して〉

平成21年4月に博士後期課程を開設するこ

とができたが、その過程で当初の我々の案で一部実現できなかったことがある。ご存知の様に、博士後期課程は、秋田県の出生率が47位という問題に対応する女性小児発達支援科学分野と高齢化率1位という問題に対応する高齢者生活機能支援科学分野の2本の柱で構成されているが、当初の案はこれに「医療職健康増進科学分野」を加えた3本の柱での構想であった。この3本目の柱の扱う領域は、日本の医療の担い手としての看護職者などが厳しい労働環境下で働いており、そのため自らの健康を損ね、ひいては患者に十全な看護を提供できないことに至るという現状認識の下に、それを検証し、解決することを目指して立てた柱であった。本省との事前相談においては、当初は、大学院でこの様な領域をもっている大学は日本になく、学部レベルで見ても四日市看護医療大学1つであることから、意欲的な試みであると高く評価された。しかし、何度も事前相談を続ける中で、

・我々の主張の根拠となる客観的データが看護職者に関連したものも含めて、質的にも量的にも不足である。

看護職者（医療の担い手）も患者となれば医療の受け手になるのだから、担い手・受け手という概念が曖昧である。

女性小児発達支援科学分野と重なる部分がありわかりにくい。

等の理由で、「意欲的な内容であることは認めるが、この領域の設置の必要性が社会から十分に受け入れられるには、時期尚早である」

との最終指導を受け、3本目の柱は断念することとした。

あれから6年経ち、医療職者の健康を維持増進することに社会全体として取り組むことの重要性が、広く認識されるに至ったと考えている。その顕著な例が2025年問題である。2025年には私のような団塊の世代が全員75歳以上となり、また高齢者人口（65歳以上）が3500万人となる。この3500万人の介護を誰が行うか、そしてその介護者の労働環境や賃金は十分に担保されているか、という大問題が横たわっているのである。

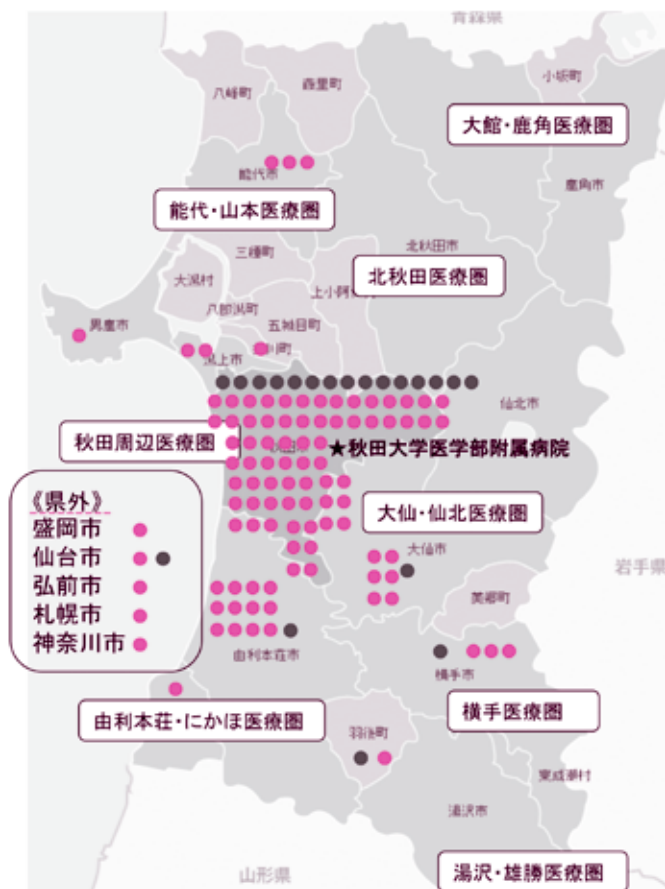
従って、私からのお願いというのは、（そのネーミングに関しては本省には不評であったが、）内容においてこの医療職健康増進科学分野をいつか再興していただきたいということである。これは必ずや2025年問題の解決に資する領域になれるはずである。

最後に平成19年に開設した保健学専攻大学院修了者120名（前期100名、後期20名）の勤務先を図にまとめたので呈示したい。秋田市が80名と最多であるが、横手市、大仙市、由利本荘市、能代市等に複数の修了生を出しており、盛岡市、仙台市、弘前市、札幌市、神奈川県など県外にも修了生を出している。開設時に本省に約束した「地域再生への貢献と保健学の発展」という目的を達成してきたと考える。今後はこれまでと同様に皆で一致団結して、より充実した大学院に発展させていきたい。

博士課程入学者の勤務先(120名)

前期: ● 100人 後期: ● 20人

	前期	後期	計
秋田市	65	15	80
横手市	3	1	4
大仙市	6	1	7
由利本荘市	12	1	13
能代市	3		3
にかほ市	1		1
南秋田郡	1		1
羽後町	1	1	2
潟上市	2		2
男鹿市	1		1
仙台市	1	1	2
盛岡市	1		1
弘前市	1		1
札幌市	1		1
神奈川県	1		1



〈退職教員から〉

「いのち・やすらぎファーム」の米づくり

理学療法学専攻・教授

進藤伸一

この3月に大学を退職し、いま「いのち・やすらぎ基金」の設立趣旨にそった生活をしている。「いのち・やすらぎ基金」というのは、交通事故で亡くなった娘の損害賠償金を原資にして、1994年に設立した法人格を持たないNPOである。これまでは寄付を中心に運営してきたが、退職を機に、私自身が設立趣旨にある「人間を含むこの地球が、より生き生

きと、美しく、やすらぎに充ちることを願って活動」することを始めようと思ったのである。

「いのち・やすらぎファーム」は、「基金」の趣旨の一つである自然との共生をめざして始めた米づくり、野菜づくり、そしてニワトリ飼育の小さな農園である。

今回は、米づくりについて簡単に紹介した

い。まずは田植え。手植えなので、少しでも人手があればと思い、私は大学の先生や学生たちに、妻は所属している友の会のメンバーに声をかけたところ、大人18人、子ども9人が手伝いに来てくれて、ほんとうに賑やかな田植えとなった。その後の水管理と草取りは私がやったが、あとはすべて自然まかせ。疎植が良かったのだろう、稲は見るからに健康そうに成長し、秋にはりっぱな穂をつけてくれた。稲刈りも手刈り。田植えをしてくれた人たちを中心に、大人12人、子ども7人が手伝ってくれて、今ではほとんど見かけない稲架がけの天日干しにした。まさに「手植え、手刈り、天日干し」の米づくりである。

排気ガスを出す機械に頼らず、額に汗して

苗を植え、草を取り、稲を刈る。慣れない作業でときどき腰を伸ばす親がいて、泥んこになったと泣く子、笑う子がいる。それは、日本の原風景の一場面のように、どこか懐かしい、こころ和む、「美しい風景」に見えた。

第1回収穫祭には、子どもを含め30名が集まってくれた。自分が手がけたお米を味わい、アルコールも入った楽しいひと時を過ごし、お土産にお米を持って帰ってもらった。そのとき、お米のほしい人がいれば少しは販売できると話したところ、希望者がいて「基金」のための現金収入も得ることができた。

こうして「いのち・やすらぎファーム」の米づくりは、みなさんに支えられて順調にスタートした。感謝である。

国際交流委員会の活動報告

委員長

浅沼義博

【はじめに】

2012年4月に医学部保健学科に国際交流委員会が発足した。ここ2年間余の活動としては、1) フィンランドのケミ・トルニオ応用科学技術大学看護学部との交流事業として米山奈奈子教授がフィンランドを訪問して保健学科の紹介をしてきたこと、2) 2012年7月に医学部榎本克彦教授(当時の秋田大学国際交流センター長)が秋田大学と王立ブータン大学との大学間国際協定を締結したことを起点とした王立ブータン大学健康科学院(RIHS)との交流事業がある。本稿では、後者についてこれまでの経緯と実績を述べてみ

たい。

【ブータン王国とは】

ブータン王国は、面積は九州ほどで人口は70万人、立憲君主制でワンチェク国王が統治しており、公用語はゾンカ語、英語でヒマラヤ山脈～インド平原(7,500-100m)に至る斜面の国である。国の統治理念はGNH(Gross National Happiness)>>GNPが有名である。

王立ブータン大学は、2003年創設されたブータン唯一の大学(学長は国王)で10のカレッジの集合体である。医学部はなく、医療関連のカレッジとしては、王立健康科学

院：Royal Institute of Health Science（看護師，助産師，保健師，理学療法士，検査技師を育成），National Institute of Traditional Medicine（漢方医育成）がある。

【ブータンからみた秋田大学との国際交流の目的】

- 1) 極めて高い妊産婦死亡率ならびに乳幼児死亡率の改善
- 2) 看護研究方法の支援
- 3) 実習機器の整備支援

【経緯と実績】

- 1) 平成24年7月 大学間国際協定締結：日本の国立大学として最初である。
- 2) 同 11月 ブータンから3名の教授が来秋し，秋田大学60周年記念ホールで「ブータンに学ぶ幸福学」と題する国際シンポジウムが開催された。
- 3) 平成25年2月 日本から教員3名（保健学科からは浅沼と篠原ひとみ教授が訪問し，講義や視察を行なった）と職員1名が渡航した。
- 4) 同 7～8月 日本から教員4名（保健学科からは浅沼が訪問し，講義や胃癌手術を行なった），保健学科学生2名（石川紗月，中島巳歌），職員1名渡航。このうち，教員1名（保健学科吉田倫子助教）は4週間滞在し，学生2名は2週間滞在して，それぞれ有意義な研修を行なった。
- 5) 平成26年2月 ブータンから2名の教員が来秋した。2週間滞在し，秋田大学と横浜市の助産所で研修した。この研修スケジュールを文末に記した。

このうち，2/19に行なった本学教員による講義のテーマは以下のごとくである。

1. 石井範子教授

：Nursing system in Japan

2. 佐々木真紀子教授

：Nursing process. (1)The educational positioning of the nursing process in basic nursing programs in Japan. (2)An introduction of the education contents of the nursing process in this school

3. 篠原ひとみ教授

：The history, system and midwifery education in Japan

4. 工藤直子助教：Nursing management

5. 吉田倫子助教

：Effective childbirth care and freestyle birth

6. 米山奈奈子教授：DV and addiction

7. 篠原ひとみ教授

：Midwifery home Birth AOBA

8. 浅沼義博教授

：Culture of Japan and Akita

また，附属病院感染管理認定看護師の中村美央先生には，Hand hygiene is the standard for infection control.の講義と手洗い演習をご指導いただいた。各位のご尽力に感謝したい。

【国際交流委員会としての今後の展望】

王立ブータン大学との大学間国際協定に基づく事業の推進，特に数年後に新たに設立される王立ブータン大学医学部医学科に対する秋田大学医学部としての支援

ケミ・トルニオ応用科学技術大学との事業
英国Durham大学との研究を中心とした交流の推進（兒玉教授，篠原教授，吉田助教，工藤助教がシンポジウムに招待され，2014/3/29～4/2渡航）

【addendum】

今回2週間の研修を終えたMoktan先生と

Mothey先生から大学宛にお礼のメールが届けられた。これも文末に記し、秋田大学国際

課滝川敏生氏をはじめご尽力いただいた皆様に心から感謝したい。



ブータンでの見聞から得た学びと今後の支援の方向性

医学系研究科保健学専攻 母子看護学講座

吉田 倫子

この訪問での私の目的は、今後、秋田大学がブータンのためにどのような支援ができるのかを探ることでした。よって私は、ブータンの首都ティンブー病院の周産期関連病棟・外来、診療所、そして学内での講義に入らせていただき、視察をしました。

ブータンの医療や看護全体をみて感じたことは、家族の存在の大きさでした。ブータンでは医師が不足しているため、看護師の仕事は医療、看護は家族が担わなければなりません。よって、家族の付添がなければ入院することもできないのです。個人的に、今の日本のように、医療も看護も専門性が高くなりすぎて、家族が蚊帳の外に追いやられてしまっているのも良くないと思うので、ブータンのように家族が常に患者の傍にすることができ、看護に関与できるという点には良い面もあると感じました。しかし、病院側からの家族への配慮がほとんどなく、病棟内に家族が利用できるトイレがなかったり、スリッパも履かせず裸足で入室させていたりという面もあり、家族にも目を向けた支援の必要性を感じました。

病棟の中で私が最も興味を抱いたのは、新生児病棟です。ここには日本人の医師がおり、日本の医療が展開されていました。ブータン

では、「新生児が病気に罹った時だけは絶対助かる」と言われる程、日本の医療は信頼されています。また、この病棟ではカンガルーケアユニットという治療部門を立ち上げて、NICUで治療を受けた早産児のディベロップメンタルケアにも力を入れていました。ここでは、母親が子どもを一日中抱いてスキンシップをとっています。日本でもこのようなカンガルーケアの意味や重要性は言われていますが、ここまで徹底して実践されている点がブータンという地ならではの点だと思いました。

学生教育においては、ブータンでは分娩件数が多いため、助産師の国家資格を得るために学生1人当たりが行う分娩介助は20件、その他にも各課題が厳しく規定されており、



日本に比べて実践面の教育が充実してしまし

た。また、助産師教育の中で会陰切開や縫合についても実践的な教育が行われている点が日本と違っていました。

ブータンの課題として私が感じたことは、清潔操作や患者の安全・安楽を考えた看護、患者への説明や教育が不足している点でした。一方で前述のとおり、ブータンの医療現場には慢性的な人手不足の問題であり、最低

限のケアしかできないという現状があります。しかし、患者のことを一番に考えたより良いケアに向けて少しでも質を上げていく必要性は高いため、ブータンの現状において実践可能な対策を検討して行くことは重要だと考えます。今回の視察で得た課題をもとに、ブータンに役立つ効果的な支援を検討していきたいです。

王立ブータン大学健康科学院の先生方の茶の湯体験

看護学専攻・平成26年度国際交流委員会委員長

山口典子

まだ雪深い2月20日、ブータンから秋田大学を訪問されたRenuka Mothey、Manikala Moktan先生をお招きして、立礼茶席が設けられました。お茶会はお二人に日本の文化を体験し、理解を深めて頂くことを目的に11時から大学院生セミナー室にて開催されました。

お茶会の準備は2週間前、2月4日に裏千家茶道教授山中宗静先生が大学に下見をかねてお茶会の相談に来られたことから始まりました。その際、お茶会のテーマは時節柄「ひな祭り」と「龍」とすることになりました。「龍」はブータンが雷龍の国として知られ、国旗にも龍が描かれていることにちなみ歓迎の意を込めてテーマとして選ばれました。

当日は山中先生をはじめとして山中社中より伊藤宗令先生、柴田宗郁先生、高橋宗貴先生、安藤友里さんが大学にいらして9時半頃からお茶会の準備が始まりました。「ひな祭り」のテーマにそって内裏雛、茶花は桃の花、

「一期一会」の掛物、蛤の香合などが飾られ、ぼんぼりの形の水指が選ばれました。山中先生が説明されるのを通訳させて頂くと、全てが初めてのお二人は一つ一つが大変珍しく思われたらしく、興味深く聞き入って下さいました。

主菓子は山中先生が特別に注文された花東の形のお菓子で、とても美味しい(Tasty!)と言っておられましたが、黒文字を使うのが難しかったようで先生から「手で召し上がってもいいですよ」と言われたにもかかわらず、最後まで黒文字を使って召し上がっていらしたのが印象的でした。ブータンでは食事には主に手を使われると聞きましたので、私達に習い郷に入ってはと大変気遣いをなされたのだと思います。安藤友里さんのお手前でお二人にお茶がふるまわれましたが、Motheyさんには“竜の落とし子”が描かれたお茶碗、Moktanさんには“富士山”が描かれたお茶碗でお茶が点てられました。お茶を頂く時の

ご挨拶やお作法を説明しましたが、山中先生がなぜそうするのかも説明して下さいましたので、日本人の「一期一会」というおもてなしの心や客に対する心配り、さらにお茶会を

主催する亭主に対する客側の感謝の表現の一端に触れて頂けたと思います。ブータンではお茶といえば紅茶、それもミルクティーが好まれていると聞いていましたので抹茶の味が

Schedule for two faculty members from RIHS,Bhutan

Ms.Renuka Mothey, Ms.Manikala Moktan

2014.2.17~3.2

Day	Week	AM	PM
17	Mon	KB126 (11:45~16:40 Paro→Bangkok) NH174 (22:40~6:30 Bangkok→Tokyo Haneda)	
18	Tue	ANA873 (10:35~11:40 Tokyo Haneda→Akita)	Visit Headquarter of Medical Faculty and Akita Univ Hospital (Director of HS at 15:00, Nursing director at 15:30, Dean and Hospital director at 16:00)
19	Wed	Lecture (9 : 00~12 : 00) ①Basic spirit of nursing (Ishii)(30分) ②Nursing process(Sasaki)(30分) ③System of midwifery in Japan (Shinohara)(30分) ④Nursing management(Kudo)(30分) ⑤Effective childbirth care and freestyle birth(Yoshida)(40分)	Lecture (13 : 00~14 : 10) ⑥DV/Addiction (Yoneyama)(40分) ⑦Outline of Midwifery Home,Birth AOB(AShinohara) (10分) ⑧C u l t ure of Japan and Akita(Asanuma) (20分) Observation of class and training room (14 : 30~15 : 30)
20	Thu	Visit Akita Prefectural Government(10 : 00~10 : 30) J a p a n e s e tea ceremony (11 : 00~12 : 00)	·Lecture (14:00~15:00) ①Mothey ②Moktan ·Observation of Simulation Center (15 : 30~17:00)
21	Fri	Visit Akita Red Cross College(Joint meeting: International cooperation) ①Red Cross College ②Red Cross College ③Akita Univ (Makabe,Takagai,Asanuma) ④RIHS (Mothey)Bhutan &Happiness ⑤RIHS (Moktan) Nursing	Visit Akita Red Cross Hospital (MFICU)
22	Sat		(Kakunodate, Tazawa Lake and Hot Springs)
23	Sun	Tourism in Akita	(Oga and Hot Springs)
24	Mon	Observation in Akita Univ Hospital Guidance of the Nursing Department of Akita Univ Hospital (Sasaki)	· Explain about infection control in Akita Univ Hospital (Nakamura) · Exercises of hygienic hand-washing(Nakamura)
25	Tue	Observation in Maternity wardin and Antenatal care in outpatient	
26	Wed	※2	
27	Thu	ANA874 (9:35~10:45 Akita→Tokyo Haneda)	Maternity Hospital (Outpatient care in Birth Aoba)
28	Fri	Maternity Hospital (Health care for pregnant woman and childbirth care in Birth Aoba)	
1	Sat	Tourism in Tokyo (Asakusa, Tokyo Sky Tree)	NH915(17:50~23:10 Tokyo Narita→Bangkok)
2	Sun	KB131 (6:50~10:00 Bangkok→Paro)	

※1 Ohtomo's Residence , ※2 Farewell Party by Akita Univ.

どうかと伺ったところ、美味しいし香りがとてもいいとのことのお返事でした。お二人共抹茶を大変気に入られたようで、お茶を召し上がった後抹茶をお土産にしたいので買える所を教えてくださいませんかという要望がありました。お二人のスケジュールにはあまり余裕がありませんでしたので、山中先生のご厚意により後日お抹茶と茶筌がお二人にプレゼントされました。

最後にお二人はご自身でお茶を点てる体験をされました。茶筌を使って泡立てるのが少し難しかったようですが、先生の指導に従って丁寧に所作を習っていました。お二人は

お茶会の印象をVery impressiveと表現され、また山中先生を始めお茶会をお手伝い下さった社中の皆様に何度もお礼を言われ大変感謝されておりました。このお茶会には秋田テレビ (AKT) が取材に来ており、お茶会の模様は当日の夕方のニュース番組で紹介されました。

末筆になりましたが、このお茶会を主催して下さった山中宗静先生始め山中社中の皆様が、準備からすべてボランティアでなさって下さったことに対し、国際交流委員会を代表致しまして篤く御礼申し上げます。





ブータン短期研修

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻・母子看護学講座
工藤直子

8月25日～9月5日の2週間、王立ブータン大学健康科学院にて看護師助産師養成教育や、保健・医療サービスの現状について研修を行いました。乳幼児や妊産婦死亡率が50年前の日本の状況にも満たないブータンでは、国を挙げて母子保健に力を入れており、その一方で医師不足への対応として医療従事者の養成が急務とされていました。学生はスタッフの

ように実習しており、看護師は医療行為を一部担っていました。そのため、入院患者は主に家族のケアにより療養しており、精神的な豊かさを示す国民総幸福量(GNH)を提唱しているブータンならではの温かい一面も感じられました。私たちも現地の教職員や学生たちの温かさに支えられ、無事に研修を終えることができたことに感謝いたします。



看護学専攻の臨地実習について —実習で育みたいこと—

看護学専攻実習委員長
伊藤 登茂子

看護教育において実習は欠かすことのできない学習方法です。後援会会員であるご父母の皆さまに少しでも実習について知っていただき、今後の更なるご支援の参考になればと思います。

看護学専攻では看護師、保健師、助産師の資格を得て看護職となるために必要な教育を行っています。とはいえ大学教育ですから、学生のその後の人生において必ずしも看護職に就かなくとも、看護学を修めたことが生活の中で活かされるならそれも良いと考えております。助産師は当初から4人、保健師については平成24年度入学生から20人の選択制となっています。

どの資格で働くにも看護師となるために必要な学習が基盤となります。また、卒業に要する履修基準の総計に対して実習の占める割合はおよそ20%と多く、時間的にも23週、延べ1,000時間超となっています。保健師・助産師を選択する学生は、これにプラスされることとなります。

臨地実習科目については割愛しますが、多くの時間をかけて実習する中で大切にしてほしい事は、人々の‘健康’をとおして人生の大切な局面に関わらせていただくことの責任と誇りです。どちらかという人々が残念に思っている状況や、辛い苦痛や苦悩に看護として介入することになる訳ですから、学習者としても悩み、厳しさを体験するであろうことは想像に難くありません。一方、看護の対象の身体と心、そして生活背景を十分適切に理解し、どうしたら現在抱えている健康上の問題が解決できるか、病気とともにその人なりの生活をどう整えていけ

るか、さらに、いかにその人の能力を最大限に引きだして質の高い健康生活に導くことが出来るか、といったことに主体的・積極的に臨み、スタッフも脱帽と感じる程の成果を挙げる学生も珍しくありません。

対象を大切に思う温かな気持ち、どうかしてお役に立ちたいという誠意や看護の魂、そして、それらを形に表わし行動化できる知識と技術、これらの絶妙なバランスが感動をもたらす看護に繋がるように思います。そこには単なるやらされ感のもとで行う実習ではなく、人対人としての関係性を良好に保つコミュニケーション力や看護の使命感が存在しているようです。科目ごとの実習目的・目標にはそれぞれ特徴があるとはいえ、共通しているのは看護に携わる者として必要な知識・技術・態度を養うということです。倫理的感性も磨いていくことが望まれます。

論理的な思考と判断力、苦痛を緩和し安楽をもたらす技術、他者を尊重しつつ自分の意見も率直に述べられるコミュニケーションスキル、対象のやる気やその気を引きだせる教育力、仲間と切磋琢磨できる探求心と協調性、真理を追求する姿勢と自己学習力、そして対象の幸福を意図して関わることは同時に自身の幸福にも繋がるという感謝の心、これらが実習をとおして育みたい能力・資質です。

同時に、超高齢社会のなか活躍するであろう在学中の皆さんには、これらのことは実習時のみではなく、実は日頃から意識してほしいことでもあります。

理学療法学専攻の臨床実習について

理学療法学専攻

佐竹 將 宏

将来、理学療法士を目指す学生にとって、臨床の場で働く経験を数多く有することは、大変重要なことでもあります。理学療法士が治療の対象とするのは、障害のある方々であり、それは、学校といういわゆる若い健全な人が集まっている場所では、到底経験することができません。しかも、生まれてすぐの乳幼児から100歳を超えるご高齢の方まで、老若男女、障害を持つあらゆる方が、理学療法の対象となります。加えて、近年では“障害予防”の分野にまで、理学療法士の仕事の範囲は拡大してきています。

入学されてきた多くの学生は、いわゆる“患者さん”を治療するという目的に、胸を膨らませています。しかし、実は多くの学生は“患者さん”を知りません。入学試験の面接でよく耳にするのは、「自分が怪我をして、治療するということに素晴らしさを感じたから」とか、「身内で病気になった人がいて、治療していた理学療法士に自分もなりたいたったから」という、近視眼的なものです。

そこで当専攻では、1年次から「臨床実習」という授業を設け、理学療法士の働いている職場に身を置いてもらうことをカリキュラムに組み込んでいます。1年次の臨床実習では、理学療法士はどのように仕事をしているのか、リハビリテーションとは何かを、体験、学習する機会としています。わずか5日間ですが、朝から夕方まで毎日緊張感をもって「職場」で過ごし、また、目の前におられる患者さんを治療するという視点でもって患者さん

と接するという、すべてが初めてのことを経験します。この経験は、学生それぞれでいろいろな思いを抱くようですが、このことが理学療法士としての将来像を描く礎となっていると期待しています。

2年次からは、理学療法の技術を体験し、社会人としてのマナーを更に学ぶ臨床実習が始まります。まず、2年次には、大学教員とともに病院へ行き、実際に患者さんと会話をし検査をして、その患者さんに対してどのように理学療法的な治療を行うか考えます。3年次にはそれぞれ、病院で働く経験豊かな理学療法士のもとで、理学療法士としての仕事を見学し、模倣し、実施するという3ステップでの実習を行います。この方法を“クリニカル・クラークシップ”と言います。そして、最終学年である4年次には、8週間ずつ2つの病院をまわって、臨床実習指導者の下で患者さんに治療を行います。

本専攻では、ほとんどの臨床実習施設を県内の病院にお願いしており、何かがあった時に教員がすぐに駆けつけることができる体制を敷いています。また、実習期間中は、大学教員が一度は実習先を訪れ、学生の実習状況を確認することを行っています。

今年度も、すべての実習をスムーズに終わることができました。保護者の皆様方のご支援に感謝申し上げます。今後とも、我々教職員は学生各々が十分に学習できるような環境づくりを目指していく所存であります。

作業療法学専攻の総合臨床実習を終えて

作業療法学専攻
石井 奈智子

今年度も無事に総合臨床実習を終えました。4年生で行う総合臨床実習では、県内外の臨床実習施設と臨床実習指導者のご協力を得て、身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域の各領域における作業療法を実際に体験させていただきました。総合臨床実習に至るまでには、授業だけでなく1年生からいくらかの実習経験を積みながら臨んだ実習でしたが、学生はもちろん、教員も不安と期待をもってすごした3期18週間でした。

実習各期終了後には報告会をし、学生それぞれが担当させていただいた対象者の症例報告を行いました。報告会では学生同士、また教員との質疑応答や意見交換をしました。この報告会には3年生も参加しましたが、去年同じように先輩の報告を聞いていた4年生が今度は報告する立場となります。去年は本当に静かに参加していた学生たちが、自分たちの実習について積極的な討論を交わす様子は、彼らの成長がよく現れていた場でした。

臨床実習では、大学の中で求められる学生という役割だけではなく、学生なんだけれども社会人、職業人としての役割も期待されるという、当然かもしれないが実は難しい課題があるように思います。実際、実習中には、関わっていただく周囲の方々との作業療法士としての心構えをもったやりとり、学校とは違う環境で学生としてしなければならないことなどうまくやれたこともたくさんあったようですが、学生にとってさまざまな難しいこ

ともあったようです。しかし、もうすぐ卒業を迎える学生たちはそれらのことにうまく対処したり乗り越える努力をしてきたと思います。

実習を通して必要とされる知識や技術を学び、また関わっていただいた対象者様や施設スタッフの皆様との出会いは学生にとって、責任をもって働く作業療法士としての自分を強く意識させ、作業療法士として実際に働き始めるための良いスタートにつながる経験になったと思います。

8期生は就職先、進学先を決定致しました。今年度も臨床実習でお世話になった施設へ就職する学生が数名おります。そして2月24日（合格発表3月31日）の国家試験に向けて日夜試験勉強に取り組んでいます。大学生活で学んだことや総合臨床実習で培った力を4月以降発揮し、活躍してくれるように教員一同願っております。

最後になりますが、1年次から4年次にわたっての臨床実習はそれぞれの到達目標や時期、期間は異なるとはいえ、本学における臨床教育に対する実習指導者及び施設のご理解とご協力により成り立っております。特に4年次の総合臨床実習では大学を長期間離れての実習になりますので、学生だけではなくご父母の皆様にも様々な面でご心配とご負担をおかけすることもあるかと思いますが、ご理解とご協力をいただきたく、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

看護学専攻の動向

26年度看護学専攻主任
篠原ひとみ

看護学専攻の動向についてお知らせします。平成26年度看護学専攻の卒業生（第9期生）は72名でした。国家試験の合格率は、看護師100%（全国平均95.5%）保健師100%（全国平均99.6%）、助産師100%（全国平均99.9%）でした。進路状況は、就職68名、進学3名、未定1名でした。就職の内訳は看護師60名（県内34名、県外26名）、保健師3名（県外3名）、助産師4名（県内2名、県外2名）でした。秋田大学医学部附属病院には34名が採用されました。大学院博士前期課程（看護学領域）の学位取得者は6名、であり、そのうちがん看護専門看護師コースの修了者は2名でした。後期課程の修了者は1名でした。

平成26年度は78名（編入生8名を含む）の学生が入学しました。初年次ゼミでは、保健学科と医学科の連携授業を4回実施しました。この授業ではチーム医療を学ぶことを目的に、保健学科と医学科混合の小グループを作り、討論をしました。入学後間もないこの時期に、目指す職種の違う学生が共に学ぶ機会を持つことは、卒業後の多職種連携に何らかの形で役立つと思います。今後も継続して行きたいと考えています。

8月には、今年度は、保健師教育が選択制となった年（平成24年度）に入学した学生が3年次生となり、保健師学生の選考試験を実施しました。40名が申請し20名が選考されました。今後は、看護師国家試験受験資格のみを取得する学生に対して、より専門的な知識や技術を獲得する選択科目を増設し、看護の魅力を発見する機会を増やしたいと考え、平成28年度のカリキュラム改正に向けて検討しています。

また、8月末から2週間、昨年同様、看護学専攻3年次生2名と教員1名が王立ブータン大学健康科学院にて研修を行いました。10月の報告会では「ブータン王国における看護研修報告およびJICA活動の実際」と題して、学生2名、教員1名の報告に加えて、榎智美さん（本学1期生で、青年海外協力隊としてブータン王国で活動し10月より秋田大学医学部附属病院に勤務している助産師）の活動についても報告して頂きました。

そして10月には、保健学科に地域包括・介護予防研修センターが開設されました。センター長として看護学専攻の中村順子教授が就任し、センター専任助教として本学2期生の佐藤亜希子さんが採用されました。このセンターの目的は、地域包括ケアを担う医療職の基礎教育と継続教育、及びその他の福祉領域専門職（介護福祉、ケアマネージャー等）に対する継続教育を行うこと、教育・研究を通じて地域包括ケアシステムの構築に貢献することです。10月27日にはキックオフ講演会「地域包括ケアにおける大学の役割～連携・人材開発～」を開催し、国際医療福祉大学大学院医療福祉分野の高橋紘士教授に講演をしていただきました。

最後に教員の動向についてお知らせします。平成26年3月に成人看護学分野浅沼義博教授が定年退職され、4月にはその後任として安藤秀明教授が着任されました。

看護学専攻は、病院内の看護だけでなく、地域や施設にいる対象者の生活を支えるケアができる看護師の養成を目指しています。後援会の皆さまには様々な形でご支援を頂き大変感謝しております。今後ともご支援くださいますようお願いいたします。

理学療法学講座の動向

25年度理学療法学専攻主任

工藤俊輔

今年度の理学療法学講座の様子を簡単にご紹介します。

まず、学生たちですが、昨年度は国家試験の受験者は15名で、7期生は14名全員合格しました。秋田県内への就職者数は7名（秋田県出身者6名、県外出身者1名）、県外への就職者数は7名（全て県外出身者）でした。残りの1名は健康の問題でしばらく国試受験を控えていた卒業生ですが体調を回復し、見事合格、県内に就職しました。ただ残念ながら3名は成績に課題が残り、今年度に卒業が延期になっています。また、ひとりとは他の国立大学理工学部へ編入、転進しました。いずれ、学生ひとりひとりの個性やニードを大事にしながら、教員側も国民の負託に応える「臨床家」を育てるべく鋭意努力をしているところです。

新入生18名は、2名が進路変更のため年度途中で退学し、16名となりました。後期試験では今回初めて定員割れが生じたため、必ずしも理学療法士を目指すという意図がないまま入学したことも影響したのではないかと考えています。しかし、この学年はみんな仲良く明るいクラスで県内出身者5名、県外は11名で部活、サークル活動、ボランティア活動に積極的に取り組んでいます。2年生は、引率教員の指導のもとで行う病院での技術実習を終え、理学療法士の具体的な姿がイメージできるようになりました。3年生は、4月からの総合臨床実習に向け準備中です。卒業研究の担当教員も決まり、いよいよ最終学年の船出間近になっています。4年生は、国家試験を無事終え、後は卒業式を待つばかりです。この学年

では全国模試（5000人規模）で4番とか、6番に位置する者も出てきて、今年度の国試では、途中下車した3名含め、19名全員合格できることを期待しているところです。

さて、今年度の大きなニュースは、やはり保健学科開学10周年と本道さくらの会・同窓会創立20周年ではないかと思います。保健学科開学時、正月返上で部長室に籠もり、吉崎短期大学部長や佐藤事務長さん、看護学科、作業療法学科主任の諸先生とカリキュラムの作成をしていた日々を思い起こします。

また、昨年11月に開催された本道さくらの会・同窓会創立20周年ではなつかしい卒業生の面々とお会いでき、至福の時を過ごすことができました。東邦大学大森病院 大津秀一先生の緩和ケアに関する記念講演も時機を得た素晴らしい内容でした。

さらに、理学療法学講座の教員人事ですが佐々木誠准教授が体調不良のため1年間病休に入ることになりました。先生は、特に、研究活動でご活躍されてきましたがご体調を回復され、早期に復帰されることを願っています。

最後に理学療法学専攻では、臨床実習教育の充実に力を入れています。しかし、最近、県外養成校の実習生が増えてきて、実習施設の確保に苦労するようになってきました。秋田県でも4年制専門学校設立の動きもあります。県内施設に勤めている卒業生の皆様には、臨床実習では本当に助けてもらっていますが、今後とも母校のためにご協力下さい。

どうぞこれからもよろしく願いいたします。

作業療法学専攻の動向

作業療法学専攻主任
石川 隆 志

最初に、平成25年3月卒業の作業療法学専攻7期生17名について報告します。17名中秋田県内就職者が15名、秋田県外就職者が2名で、例年よりもさらに秋田県内就職者が多い結果となりました。国家試験は昨年残念ながら涙を吞んだ1名を加え、18名全員が見事に合格することができました。

さて、平成25年4月には11期生19名が入学してきました。10名が秋田県内、9名が秋田県外であり、県内外の割合は前年とほぼ同様でした。ちなみに男性が6名、女性が13名と男性が例年より多く、先輩方にうらやましがられています。

次に、大学院の動向ですが、平成25年3月に博士後期課程生活機能・健康行動支援科学分野の作業療法学に関わる領域から昨年に引き続き1名が修了し、博士（保健学）を取得しました。また、博士前期課程リハビリテーション科学領域作業療法学分野では2名が修了し、修士（リハビリテーション科学）を取得しました。仕事と学業を両立し立派な論文を書き上げて学位を取得した3名の努力に心から敬意を表します。また、平成25年4月には、博士前期課程作業療法学分野に4名、博士後期課程生活機能・健康行動支援科学分野の作業療法学に関わる領域に2名が入学しました。博士前期課程4名のうち3名は学部へ引き続き、博士後期課程2名のうち1名も博士前期課程からの進学でした。在籍院生の数は多

くはありませんが、大学や教員の研究を共に実施することもあり、研究の楽しさや奥深さを考える機会になっているようです。大学院における教育は、自らが研究テーマを設定し計画を立案し研究を進めていきます。その過程を通じて研究能力を身に付けていくのですが、臨床家としての可能性も拓げる機会にもなると感じています。学部学生にも折に触れ、その意義も伝えていきたいと考えています。

教員の動向ですが、作業療法学専攻の教員体制は昨年度と変更ありません。学科長の大友先生を加えて、教員一同が学部や大学院教育の効果を高める努力をするとともに、専攻として大学の年度計画推進経費を昨年、今年と取得し、工学資源学部、教育文化学部の先生方と連携した研究を推進することや、美郷町からの湧水が心身機能に及ぼす影響に関する委託研究、三種町上岩川地区の住民組織からの健康増進に関する委託研究を受託するなど、研究や地域貢献を積極的に進めているところです。

最後になりますが、ごく少数ではありますが、在学生の学業に対する姿勢についてやや疑問を感じることもあります。作業療法学専攻では学年担任制をとり学生個々に合った支援を心がけておりますが、どうかご父兄の皆様におかれましても、目配りとお配慮をいただければ幸いです。

学生からのメッセージ

秋田大学で学び成長したこと —1年次と比較して—

理学療法学専攻4年生

佐藤 瑞 騎

私は1年生の時、この後援会だよりを書かせて頂きました。そこで『理学療法士（以下PT）とは障害のある方に新たな生命をもたらす仕事』と述べ、『切断された患者さんの脚を医師は再生することはできないが、PTは義足という脚をもたらすことができる』と記しています。理学療法、リハビリテーションというものをまだ充分理解できているとは思っていませんが、あらためて秋田大学で学び、成長したことについて考えてみたいと思います。

大学での4年間を終え、自分にとって何が有意義であったか。それは『PTとしての知識を得たこと』と『人として成長できたこと』ではないかと思えます。前者に関しては大学での講義や病院・施設での実習により、先生方やスーパーバイザー（以下SV）から多くのことを学びました。私が幸せだったことはSVが実習での考察をただ赤字で直すだけでなく、私の考えに真摯に耳を傾けながら議論を重ね、必要なご指導をして下さったことです。それにより私は自信を持って自分の考えたプログラムを患者さんに提供することができました。その時私は理学療法もSVのご指導と同じように、患者さんと交流を重ね、目標を決め、そしてPTの仕事は患者さんの

背中をそっと触れる程度で良いのかもしれないと思うようになりました。理学療法の対象である患者さんは基本的には自ら回復に向かう力があるのです、PTは患者さんがより良く回復するよう、患者さんの主体性を大事にした声掛けや支援をすることが大切だと学びました。

後者に関しては友人との大学生活、先生との交流で培われました。秋田大学に入学した当初は「PTになること」が夢でありましたが、今は「どういうPTになり、何のためにPTになるか」と考えるようになりました。まずどういうPTになるか。アスレティックトレーナーなど4年間で様々な考えが浮かびましたが、現在でも明確な方向性は決まっておりません。就職してから多くを経験し、先輩PT、他職種の先生方と交流を深めながら決めていきたいと思えます。また、大学院に進学しますので理学療法学の基礎についての研究を深めたいと思っています。次に何のためにPTになるか。私がPTを目指したきっかけは高校野球で右肘関節離断性骨軟骨炎を患い、理学療法を受けたことでした。つまり根っからの野球小僧です。そんな私なので若干飛躍はありますが「庭付き一戸建ての家を持ち、子どもとキャッチボールをすること」が、私の

夢であり目標です。

最後になりますが、私が1年生の時にクラス委員長として掲げた『入学した19人での卒業』の目標は、退学や留年したものもおり実現できませんでした。しかし2月下旬、卒業旅行ということで山形県の銀山温泉を訪れ、数年ぶりに進路変更・途中下車したものも含

め、みんなで一緒に楽しい時間を過ごしました。私はこの19人の仲間を大切にしていきたいと思っています。今まで支えてくださった家族、先輩、後輩、先生方、患者さんの皆さまに深く感謝しながら、8期生19人のご指導、ご鞭撻をこれからもよろしく御願いたします。

4年間を振り返って

作業療法学専攻4年次

小西行篤

去る3月22日、秋田県民会館にて卒業式がありました。本当に卒業するんだという実感が湧き、これからの生活に期待と不安を抱きながら出席しました。同時に、4年前に同じ会場で入学式に出席したことが、つい先日のように感じられました。思えば、入学した当時から、今と同じような気持ちを持っていたような気がします。本当にあっという間の4年間でした。学内での勉強の他にも、友人と遊んだり、アルバイトやサークル活動に参加したりなど、充実した毎日でした。学年が進むにつれて、レポートや筆記・実技試験、学外での実習が増えていき、それぞれにがむしゃらに取り組んできました。特に、長期の臨床実習では、対象者と向き合い、どうすれば対象者の生活が良くなるか、対象者の笑顔を引き出せるかを一生懸命に考えました。時には辛く、苦しいこともありましたが、自分を成長させてくれた良い経験だったと思います。

こうして振り返ってみると、その思い出の中にはいつも同じ専攻の仲間たちがいます。

グループワークはもちろん、試験前の勉強や課題を一緒に取り組んだり、テストや実習などが終わるたびに開かれる飲み会や毎年恒例のバーベキューを開催したりと、語りつくせない思い出ばかりです。本当に良い仲間に恵まれた学年だと常々感じていました。入学したときから今まで変わらないこの20人のメンバーだったから、様々なことが楽しく、長期の実習や国家試験などの困難も乗り越えられたのだと思います。

私たち8期生は、無事全員が国家試験に合格し、春からは各々作業療法士として歩み始めます。大学時代はここがゴールでしたが、作業療法士として、社会人としてはここからがスタートです。私たちは卒業する前に、それぞれがどんな作業療法士になりたいかを考え、1つのアルバムにまとめました。その目標は、対象者の生活に潤いを与える、対象者の笑顔を引き出せるようになるなど、それぞれ違いましたが、大友和夫保健学科長がそのアルバムをご覧になった際に、「まさに私が

思う秋田大学医学部保健学科がかかげる理念と一致している。」とおっしゃっていました。私たちが、無我夢中で学んだ4年間の中でつけた理想の作業療法士像は、先生方が私たちになってほしい作業療法士像と一致していたのです。この4年間は決して無駄ではなかった、ここは最高の学び舎だったと実感しました。そして、これからはその目標に向かって歩いていくこととなります。秋田に残る人、

離れる人、地元に戻る人とおりますが、共に過ごした時間がこれからの人生の糧になると信じて、また再会して語り合う日を楽しみにしています。先生方にも、学会などでお会いした際に、今よりももっと成長した姿をみていただきたいです。今まで支えてくれた家族、先生方、そして仲間たちに感謝しながら、精進していきたいと思えます。

4年間、本当に、ありがとうございました。

教員の人事異動 (25.4.1～27.3.31)

25. 4. 1	採用	看護学専攻	教授	中村 順子
	採用	看護学専攻	准教授	山口 典子
	採用	看護学専攻	講師	永田 美奈加
26. 3.31	退職	看護学専攻	教授	浅沼 義博
26. 4. 1	採用	看護学専攻	教授	安藤 秀明
26.10. 1	採用	地域包括ケア	助教	佐藤 亜希子
27. 3.31	退職	看護学専攻	講師	渡邊 知子
	退職	理学療法学専攻	教授	進藤 伸一
	退職	作業療法学専攻	教授	大友 和夫



平成25年度入学試験について

入試委員長

湯 浅 孝 男

平成25年度入学試験は、平成25年9月7日（土）の3年次編入学試験を皮切りに、9月29日（日）の大学院前期課程、後期課程の入学試験を経て、推薦入学試験、一般選抜の前期日程と後期日程まで支障なく執り行われ、4月にはそれぞれの入試の合格者を晴れて秋田大学の保健学科および大学院保健学専攻の新入学生として無事迎え入れることができました。

学部生の入学試験は、先ず3年次編入学試験が看護学専攻の17名の受験生に対して行われ、8名が入学しました。理学療法学専攻と作業療法学専攻については出願者はありませんでした。

推薦入学試験は大学入試センター試験を課す推薦入試Ⅱを、各高校から推薦された生徒（看護学専攻は各高校から3名以内、理学療法学専攻と作業療法学専攻は人数制限なし）を対象に看護学専攻は面接、理学療法学専攻と作業療法学専攻は小論文試験と面接が保健学科を試験場にして実施されました。看護学専攻は46名の受験者に対して16名、理学療法学専攻は27名の受験者に対して6名、作業療法学専攻は13名の受験者に対して5名が合格しました。昨年と比べると、受験者数は看護学専攻が2名減、理学療法学専攻は4名増、作業療法学専攻は3名増でした。

一般選抜前期日程試験は、2月25日に、3専

攻とともに英語と面接による個別学力検査が行われました。看護学専攻は志願者数98名、受験者84名、合格者43名、理学療法学専攻は、志願者41名、受験者32名、合格者11名、作業療法学専攻は志願者26名、受験者21名、合格者11名でした。

後期日程試験は、3月12日に小論文試験と面接で個別学力検査が行われました。看護学専攻は、志願者86名、受験者22名、合格者15名、理学療法学専攻は、志願者37名、受験者11名、合格者3名、作業療法学専攻は志願者42名、受験者14名、合格者4名でした。前期日程と後期日程を合わせた一般選抜の志願者数、受験者数は、昨年と比べて理学療法学専攻は増加したものの、看護学専攻と作業療法学専攻は減少しました。

18歳人口の減少と公私立大学医療系の学部の新增設は続き各大学間の受験生の奪い合いは継続しています。その他に秋田大学では学部改組が行われ、平成26年度からスタートする国際資源学部（新設）・理工学部（再編）・教育文化学部（再編）の受験が行われました。保健学科に優秀な人材を集めるために県内外で行われる進学説明会、高校の進路指導教諭に対する高校訪問そして高校生対象の入試説明会に25年度は積極的に取り組みましたが、今後もより一層の努力を継続していくことが必要と考えています。

平成25年度秋田大学医学部保健学科入学試験実施状況

専攻		募集人員					志願者数					受験者数													
		推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計									
看護学	計	15	40	15	-	70	48	114	161	-	318	43	93	54	-	190									
	男/女	-	-	-	-	-	5	38	16	98	25	136	-	-	46	272	5	38	10	83	12	42	-	-	27
理学療法学	計	6	10	2	(2)	16	26	15	14	45	100	25	9	4	45	83									
	男/女	-	-	-	-	-	12	14	9	6	10	4	20	25	51	49	11	14	4	5	3	1	20	25	38
作業療法学	計	5	10	3	-	18	11	30	21	-	62	11	29	8	-	48									
	男/女	-	-	-	-	-	1	10	15	15	8	13	-	-	24	38	1	10	14	15	2	6	-	-	17
合計	計	26	60	20	-	104	80	159	196	45	480	79	131	66	45	321									
	男/女	-	-	-	-	-	18	62	40	119	43	153	20	25	121	359	17	62	28	103	17	49	20	25	82

専攻		合格者数					辞退者数					入学者数																		
		推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計														
看護学	計	16	42	19	-	77	0	4	3	-	7	16	38	16	-	70														
	男/女	2	14	2	40	2	17	-	-	6	71	0	0	0	4	1	2	-	-	1	6	2	14	2	36	1	15	-	-	5
理学療法学	計	6	8	2	4	20	0	0	2	0	2	6	8	0	4	18														
	男/女	3	3	4	4	2	0	0	4	9	11	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	3	3	4	4	0	0	0	4	7
作業療法学	計	5	10	5	-	20	0	0	1	-	1	5	10	4	-	19														
	男/女	0	5	5	5	1	4	-	-	6	14	0	0	0	0	0	1	-	-	0	1	0	5	5	5	1	3	-	-	6
合計	計	27	60	26	4	117	0	4	6	0	10	27	56	20	4	107														
	男/女	5	22	11	49	5	21	0	4	21	96	0	0	0	4	3	3	0	0	3	7	5	22	11	45	2	18	0	4	18

平成26年度秋田大学医学部保健学科入学試験実施状況

専攻		募集人員					志願者数					受験者数													
		推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計									
看護学	計	15	40	15	-	70	46	98	86	-	230	46	84	22	-	152									
	男/女	-	-	-	-	-	3	43	19	79	9	77	-	-	31	199	3	43	18	66	6	16	-	-	27
理学療法学	計	6	10	2	-	18	27	41	37	-	105	27	32	11	-	70									
	男/女	-	-	-	-	-	15	12	25	16	19	18	-	-	59	46	15	12	19	13	7	4	-	-	41
作業療法学	計	5	10	3	-	18	13	26	42	-	81	13	21	14	-	48									
	男/女	-	-	-	-	-	4	9	7	19	15	27	-	-	26	55	4	9	6	15	5	9	-	-	15
合計	計	26	60	20	-	106	86	165	165	-	416	86	137	47	-	270									
	男/女	-	-	-	-	-	22	64	51	114	43	122	-	-	116	300	22	64	43	94	18	29	-	-	83

専攻		合格者数					辞退者数					入学者数																		
		推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計	推薦Ⅱ	前期	後期	2次募集	合計														
看護学	計	16	43	15	4	78	0	3	4	1	8	16	40	11	3	70														
	男/女	2	14	7	36	4	11	2	2	15	63	0	0	0	3	2	2	1	0	3	5	2	14	7	33	2	9	1	2	12
理学療法学	計	6	11	3	0	20	0	0	0	0	0	6	11	3	0	20														
	男/女	2	4	5	6	1	2	0	0	8	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	5	6	1	2	0	0	8
作業療法学	計	5	11	4	0	20	0	0	0	0	0	5	11	4	0	20														
	男/女	1	4	5	6	2	2	0	0	8	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	5	6	2	2	0	0	8
合計	計	27	65	22	4	118	0	3	4	1	8	27	62	18	3	110														
	男/女	5	22	17	48	7	15	2	2	31	87	0	0	0	3	2	2	1	0	3	5	5	22	17	45	5	13	1	2	28

平成25年度卒業生進路状況

平成26年4月現在

専攻名	就職者数						進学者数						その他	合計
	県内		県外		計		県内		県外		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
看護学専攻	9	29	3	31	12	60	0	2	0	2	0	4	2	78
理学療法学専攻	9	5	3	2	12	7	0	0	0	0	0	0	0	19
作業療法学専攻	4	7	0	8	4	15	0	0	0	1	0	1	0	20
計	22	41	6	41	28	82	0	2	0	3	0	5	2	117

理学療法学専攻及び作業療法学専攻の県内進学者は、就職進学者で就職者数にも含まれている。

平成26年度卒業生進路状況

平成27年4月現在

専攻名	就職者数						進学者数						その他	合計
	県内		県外		計		県内		県外		計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
看護学専攻	5	31	2	30	7	61	1	2	0	0	0	1	0	72
理学療法学専攻	4	9	2	4	6	13	0	0	0	0	0	0	0	19
作業療法学専攻	0	8	1	5	1	13	0	1	0	0	0	0	0	15
計	9	48	5	39	14	87	1	3	0	0	0	1	0	106

理学療法学専攻及び作業療法学専攻の県内進学者は、就職進学者で就職者数にも含まれている。



「年老いた沼」と女神 ～思い出の山旅 その5 雌阿寒岳～

理学療法学専攻・教授

岡田 恭 司

北海道東部の“まりも”で知られる阿寒湖から、さらに山奥へ分け入った雌阿寒温泉の近くに、オネントーという名の湖がある。アイヌ語で「年老いた沼」という意味の名前になぜか惹かれ、1980年の夏、北海道帯広市の病院を見学させてもらった時の休日に一人でバスを乗り継ぎ訪れた。雌阿寒温泉までのバ

スは最盛期の夏にも関わらず、乗客は若い女性二人と私だけだった。彼女らはキスリングと呼ばれる横長の布のザックを背負い、革製の重そうな登山靴を履いていて、大学のワンゲル部なのだろうと思われた。やがてバスの音声案内でオネントーが紹介され、次いで雌阿寒岳が紹介されると、彼女達は日焼けした

顔を見合わせ、嬉しそうに笑った。女神のような笑顔だった。きっと雌阿寒岳に登るのだろう。登山の準備は何一つしていない私には、雌阿寒岳に登れる彼女らが羨ましかった。残念な気持ちを抑えながら、オネトーの周囲を歩いた。オネトーは深い藍色で、光と波で少しずつその色を変化させていた。沼の向こうには噴煙を上げる雌阿寒岳と端正な形の阿寒富士が並んでいて、オネトーと山々がお互いを支え合っているように思えた。ただ、なぜオネトーが「年老いた沼」と呼ばれているのか、私には何も分からなかった。それからというもの、素晴らしい沼の姿と、登山できなかった無念の思い、それに日焼けした顔で笑っていた女神たちの姿が重なって、ずっと心から離れなかった。

念願の雌阿寒岳登山の日は30年以上たってから訪れた。女満別空港でレンタカーを借り、雌阿寒温泉へと向かう。記憶は模糊としていて、こんな山の中だったのかと思うほど遠い道のりである。雌阿寒温泉の民宿に到着した頃には、もう辺りは暗くなり始めていた。真っ暗になる前に登山口を確認し、薄暗い電燈のなか、かすかに硫黄のにおいのする温泉に付き、明日の晴天を祈った。

翌日、早朝5時頃に雌阿寒温泉を出発し、ゴゼンタチバナが咲く、エゾアカマツの林の中の登山道を進んでいった。少しの登りで樹林帯を抜け、岩のごつごつした、風の強い所に出た。天気良ければオネトーが見えるはずであるが、ガスが低く立ち込め、展望はあまりよくない。途中で道の標識を何度か見失いながら曇り空の中を進む。岩場では雌阿寒岳固有種のメアカンフスマや、雪洞の様な白いイソツツジが鮮やかである(図1)。やがて飛行機のエンジン音の様な爆音が聞こえてきた。連続するこの爆音は何か?不安で辺りを見渡すと、深い森の中に、木々の緑に藍

を混ぜたような色の平らな部分が見えた。30年以上たっているのに、オネトーだとすぐに分かった。樹林帯を抜けた時にも見えていたのかも知れないが、今ようやく思い出のオネトーが見え、爆音に対する不安が楽になった。「年老いた沼」という名前の意味が少し分かった気がした。冷静になり、この爆音は噴火の音であることによりようやく気が付いた。雌阿寒岳が活火山であることを忘れていたのである。やがて道は砂礫となり、頂上が近いことが分かったが、爆音は徐々に強くなり、さらにガスで視界が利かなくなった。恐る恐る頂上へ辿り着いたが、何も見えない。地図と磁石で方向を確認しながら、ガスと爆音の中、頂上から阿寒富士へ向かった。阿寒富士への道は、雌阿寒岳の火口に沿って下るように続いている。この山はいつも爆音が鳴っているのかと思ひ下るうち、周囲が徐々に晴れてきた。道端には緑の木々が少しずつ増え、コマクサやキンポウゲなどが咲き乱れている。雌阿寒岳頂上付近を振り返ると、火口の輪郭がくっきりと見え、噴煙があたりを覆っている。この時になってようやく、私が頂上付近でガスと思っていたのは、私の周囲に留まっていた噴煙であったことに気が付いた。少し背筋が寒くなったが、自分の周囲に緑の木々があり、高山植物も咲いているという事実が心を落ち着かせてくれた。

やがて辿りついた阿寒富士頂上からの眺めは雄大であった(図2)。雌阿寒岳は絶えることなく噴煙をあげ、吠え続けていた。その昔に溶岩が流れ出たのであろう、多数の茶色の筋状の地形が見え、その間には草木の生える緑色が頂上へ向かうように伸びていた。マグマの力の壮大さが信じられなかった。そしてそれを緑に徐々に変えていく自然の力が頼もしかった。その昔、雌阿寒岳には情の深い女神が住んでいて、夫である雄阿寒岳が受け入

れなかった魔人を匿ってやったと言い伝えられている。熱いマグマと優しい自然がせめぎ合うこの山は、それ全体が女神なのだと思います。知る由もないが、30年前に女神に見えた女性二人は、どんな思いで雌阿寒岳に登り、この景色を眺めたのかと思った。

辺りはすっかり晴れあがり、下山口付近のオンネトーが朝よりももっと深い藍色に見え

た。立ち去り難かった。どこの山でも、この気持ちを抑えるのにいつも苦勞する。でも今日はもう一つの目的があった。オンネトーへ下り、30年前と同じように「年老いた沼」の湖畔から、もう一度この女神を見上げてみるのだ。そう思い至った私は、逡巡することなく立ち上がった。



図1. イソツツジ。雌阿寒岳への登山道で。



図2. 噴煙を上げる雌阿寒岳。雌阿寒富士から。

平成25年度秋田大学医学部保健学科後援会 決算書

収 入 額 5,056,237円

支 出 額 4,940,756円

差引残額 115,481円 (次年度へ繰越)

収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差引増減	摘 要
前年度より繰越	808,958	808,958	0	
会 費	4,200,000	3,640,000	△ 560,000	@40,000×88名 @20,000×6名
雑 収 入	500	607,279	606,779	預金利息、国際交流貸付金返納、 10周年記念祝賀会会費、課外活動 中止返納
計	5,009,458	5,056,237	△ 46,779	

支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差引増減	摘 要
学 部 協 力 費	500,000	859,382	△ 359,382	10周年記念祝賀会補助、臨床実習 指導者連絡協議会、特別講演会等 補助、教育賞
課外活動助成費	200,000	160,000	40,000	団体助成 (8団体)
行 事 助 成 費	800,000	713,850	86,150	新入生オリエンテーション、 見学実習・解剖体火葬時バス代
施 設 見 学 謝 礼	300,000	318,074	△ 18,074	実習施設見学謝礼
会 議 費	100,000	0	100,000	総代会・理事会
広 報 活 動 費	300,000	231,000	69,000	後援会だより (No. 22), 送料
国家試験対策経費	1,500,000	1,435,370	64,630	国家試験(模擬)受験料, 国家試 験関係図書
卒業祝賀会経費	800,000	777,408	22,592	卒業祝賀会, 卒業記念品, 卒業記 念集合写真
雑 費	50,000	6,225	43,775	ハガキ代, 切手代
予 備 費	459,458	439,447	20,011	国際交流貸付, 振込手数料, 送料, 弁当代
計	5,009,458	4,940,756	68,702	

平成26年度秋田大学医学部保健学科後援会 決算書

収 入 額 4,019,128円

支 出 額 3,681,369円

差引残額 337,759円 (次年度へ繰越)

収入の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差引増減	摘 要
前年度より繰越	115,481	115,481	0	
会 費	4,160,000	3,900,000	△ 260,000	@40,000×94名 @20,000×7名
雑 収 入	500	3,647	3,147	預金利息,模試キャンセル
計	4,275,981	4,019,128	△ 256,853	

支出の部

項 目	予 算 額	決 算 額	差引増減	摘 要
学 部 協 力 費	300,000	300,000	0	臨床実習指導者連絡協議会, 特別講演会等補助, 教育賞
課外活動助成費	140,000	140,000	0	団体助成 (7団体)
行 事 助 成 費	700,000	871,570	△ 171,570	新入生オリエンテーション, 見学実習・解剖体火葬時バス代
施設見学謝礼	300,000	291,718	8,282	実習施設見学謝礼
会 議 費	100,000	116,387	△ 16,387	総代会・理事会
広 報 活 動 費	250,000	0	250,000	
国際交流基金	100,000	0	100,000	新規項目
国家試験対策経費	1,500,000	1,135,500	364,500	国家試験(模擬)受験料, 国家試験関係図書
卒業祝賀会経費	800,000	700,000	100,000	卒業祝賀会, 卒業記念品, 卒業記念集合写真
雑 費	10,000	4,396	5,604	ハガキ代, 切手代
予 備 費	75,981	121,798	△ 45,817	振込手数料, 送料, 弁当代
計	4,275,981	3,681,369	594,612	

国際交流基金

項 目	収入金額	支出金額	差引残高	摘 要
国際交流基金	2,000,000			
		200,000		研修補助 (学生2名)
	455			2月21日までの預金利息
	4,281,401	20,000	1,780,455	ブータン講演会講師謝金 (2名)

平成27年度秋田大学医学部保健学科後援会 予算書

収 入 額 4,258,009円

支 出 額 4,258,009円

差 引 残 額 0円

収入の部

項 目	前年度予算額	本年度予算額	前年度比	摘 要
前年度より繰越	115,481	337,759	222,278	
会 費	4,160,000	3,920,000	△ 240,000	@40,000×95名 @20,000×6名
雑 収 入	500	250	△ 250	預金利息
計	4,275,981	4,258,009	△ 17,972	

支出の部

項 目	前年度予算額	本年度予算額	前年度比	摘 要
学 部 協 力 費	300,000	300,000	0	臨床実習指導者連絡協議会, 特別講演会等補助, 教育賞
課外活動助成費	140,000	140,000	0	団体助成 (7団体)
行 事 助 成 費	700,000	850,000	150,000	新入生オリエンテーション, 見学実習・解剖体火葬時バス代
施設見学謝礼	300,000	300,000	0	実習施設見学謝礼
会 議 費	100,000	100,000	0	総代会・理事会
広 報 活 動 費	250,000	300,000	50,000	後援会だより (No. 23.24), 送料
国際交流基金	100,000	100,000	0	
国家試験対策経費	1,500,000	1,200,000	△ 300,000	国家試験 (模擬) 受験料, 国家試験関係図書
卒業祝賀会経費	800,000	700,000	△ 100,000	卒業祝賀会, 卒業記念品, 卒業記念集合写真
雑 費	10,000	10,000	0	電報料, ハガキ代, 切手代
予 備 費	75,981	258,009	△ 182,028	振込手数料, 送料他
計	4,275,981	4,258,009	△ 17,972	

平成26年度秋田大学医学部保健学科後援会役員・総代名簿

役職名		氏名	学 生	
			専攻	氏名
会 長		丹 羽 誠	作業療法	歩
副 会 長		佐 藤 透	看 護	麻衣子
〃		熊 谷 明	理学療法	萌 生
理 事		田 口 暁	看 護	瑞 季
〃		福 士 直 人	看 護	早 織
〃		諏 訪 崇	作業療法	恵利香
〃		田 中 等	理学療法	里 香
監 事		福 田 芳 晴	看 護	結
〃		新 出 康 史	理学療法	卓 斗
総 代	4 年 次	(佐 藤 透)	副 会 長	
	〃	(田 口 暁)	理 事	
	〃	(熊 谷 明)	副 会 長	
	〃	(丹 羽 誠)	会 長	
	3 年 次	(福 士 直 人)	理 事	
	〃	(福 田 芳 晴)	監 事	
	〃	(新 出 康 史)	監 事	
	〃	(諏 訪 崇)	理 事	
	2 年 次	木 村 愛 彦	看 護	真 優
	〃	長 澤 勝 雄	看 護	悠 平
	〃	(田 中 等)	理 事	
	〃	三 浦 善 人	作業療法	望
	1 年 次	田 口 正 信	看 護	幸 歩
	〃	深 谷 清 春	看 護	陽 菜
	〃	近 藤 国 義	理学療法	愛
	〃	渡 邊 謙 吾	作業療法	瑞 希

○顧問

氏 名	役 職 名
大 友 和 夫	保健学科長・教授
篠 原 ひとみ	看護学専攻主任・教授
工 藤 俊 輔	理学療法学専攻主任・教授
石 川 隆 志	作業療法学専攻主任・教授

平成27年度秋田大学医学部保健学科後援会役員・総代名簿

役職名	氏名	学 生		
		専攻	氏名	
会 長	新 出 康 史	理学療法	卓 斗	
副 会 長	福 士 直 人	看 護	早 織	
〃	福 田 芳 晴	看 護	結	
理 事	諏 訪 崇	作業療法	恵利香	
〃	深 谷 清 春	看 護	陽 菜	
〃	近 藤 国 義	理学療法	愛	
〃	木 村 愛 彦	看 護	真 優	
監 事	長 澤 勝 雄	看 護	悠 平	
〃	田 中 等	理学療法	里 香	
総 代	4 年 次	(福 士 直 人)	副 会 長	
	〃	(福 田 芳 晴)	副 会 長	
	〃	(新 出 康 史)	会 長	
	〃	(諏 訪 崇)	理 事	
	3 年 次	(木 村 愛 彦)	理 事	
	〃	(長 澤 勝 雄)	監 事	
	〃	(田 中 等)	監 事	
	〃	三 浦 善 人	作業療法	望
	2 年 次	田 口 正 信	看 護	幸 歩
	〃	(深 谷 清 春)		
〃	(近 藤 国 義)			
〃	渡 邊 謙 吾	作業療法	瑞 希	
1 年 次	佐 藤 哲	看 護	南 美	
〃	高 橋 英	看 護	陸	
〃	船 木 正 美	理学療法	大 輔	
〃	佐 藤 知	作業療法	陶 子	

○顧問

氏 名	役 職 名
兒 玉 英 也	保健学科長・教授
佐々木 真紀子	看護学専攻主任・教授
佐 竹 將 宏	理学療法学専攻主任・教授
石 川 隆 志	作業療法学専攻主任・教授

大学の行事等 (平成26年4月～平成27年3月)

- | | | |
|----|------------|------------------------------------|
| 26 | 4. 1 (火) | 学年開始, 前期開始, 4年次定期健康診断 |
| | 4. 3 (木) | 2・3年次定期健康診断 |
| | 4. 4 (金) | 2年次以上ガイダンス |
| | 4. 5 (土) | 入学式(秋田県民会館) 新入学生ガイダンス |
| | 4. 7 (月) | 前期授業開始 |
| | 4. 17 (木) | 学生定期健康診断(新入学生) |
| | 6. 1 (日) | 秋田大学創立記念日 |
| | 8. 9 (土) | 夏季休業開始(9月28日まで) |
| | 8. 21 (木) | 3年次編入学試験 |
| | 9. 19 (金) | 3年次編入学試験合格者発表 |
| | 9. 26 (金) | 大学院医学系研究科保健学専攻(博士前期・後期課程)入学試験 |
| | 9. 28 (日) | 前期終了 |
| | 10. 1 (水) | 後期開始 |
| | 10. 10 (金) | 大学院医学系研究科保健学専攻(博士前期・後期課程)入学試験合格者発表 |
| | 12. 26 (金) | 冬季休業開始(1月8日まで) |
| 27 | 1. 17 (土) | 大学入試センター試験(18日まで) |
| | 1. 23 (金) | 入学試験(推薦入学Ⅱ) |
| | 2. 9 (月) | 入学試験合格者発表(推薦入学Ⅱ) |
| | 2. 16 (月) | 助産師国家試験 |
| | 2. 17 (火) | 保健師国家試験 |
| | 2. 19 (木) | 看護師国家試験 |
| | 2. 19 (木) | 春季休業開始(4月1日まで) |
| | 2. 25 (水) | 入学試験(前期日程) |
| | 2. 26 (木) | 理学・作業療法士国家試験 |
| | 3. 6 (金) | 入学試験合格者発表(前期日程) |
| | 3. 12 (木) | 入学試験(後期日程) |
| | 3. 21 (土) | 入学試験合格者発表(後期日程) |
| | 3. 22 (日) | 卒業式(秋田県民会館) |
| | 3. 26 (木) | 保健師・助産師・看護師国家試験合格者発表 |
| | 3. 30 (月) | 理学・作業療法士国家試験合格者発表 |
| | 3. 31 (火) | 後期終了, 学年終了 |

平成 2年 4月に 3年制課程の医療技術短期大学部が開設されると同時に、学生の教育活動に協力・援助することを目的とし、医療技術短期大学部後援会を発足した。平成14年10月に医療技術短期大学部を改組・転換して4年制課程の保健学科が設置され、平成15年 4月から第 1期生入学年時に医療技術短期大学部・医学部保健学科後援会として名称変更をし、平成17年 4月からは保健学科後援会として現在に至っている。

会員は学生の父母をもって構成され、入学時における協力金 4万円（3年時編入学生は 2万円）が会の運営費に充てられている。

役員（理事・監事）は、各入学年度の父母から 4名ずつ選出し、総代会（理事会）は毎年 3月に開催して、当該年度の事業報告、収支決算、及び次年度の事業計画、予算案の承認を受けている。事業内容としては、新入生オリエンテーション、卒業祝賀会、臨床実習、課外活動、国家試験対策等への助成等学部運営上の重要事項に対し、補助を行っている。

秋田大学医学部保健学科後援会会則

（目的及び事務所）

第 1条 本会は秋田大学医学部保健学科（以下「保健学科」という。）の教育活動に協力・援助することを目的とし、事務所を本学部に置く。

（会員）

第 2条 本会は、保健学科に在学する学生の父母をもって組織する。

（事業）

第 3条 本会の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 保健学科整備に伴う諸事業の援助・後援
- 二 学生の教育活動の援助・後援
- 三 保健学科と家庭との連絡
- 四 その他本会の目的を達成するために必要な事業

（役員）

第 4条 本会に次の役員を置く。

- 一 会長 1名 会を代表し、会務を総括する。
- 二 副会長 2名 会長を補佐し、会長不在のときその職務を代行する。
- 三 理事 4名 理事会を構成し、事業の執行、運営に当たる。
- 四 監事 2名 会計を監査する。

第 5条 役員は総代会で選出し、任期は 1年とする。

（総代会）

第 6条 本会に総会に代わる組織として総代会を設ける。総代の選出は次のとおりとする。

- 一 総定員 16名（各学年 4名ずつとする。）
- 二 総代は役員を兼ねることができる。

第 7条 総代会は毎年 1回開催し、次の事項を審議する。

- 一 予算の議決
- 二 決算の承認
- 三 事業の報告
- 四 役員を選出
- 五 その他必要事項

なお、必要に応じ臨時総代会及び総会を開催することがある。

（理事会）

第 8条 本会の事業執行機関として理事会を置く。理事会は会長、副会長及び理事をもって構成し、総代会の議決事項の執行並びに会の運営に当たる。

（会の招集）

第 9条 総代会（総会を含む。）及び理事会は会長がこれを招集し、その議長となる。会議は原則として出席会員をもってこれを開き、その過半数をもって議決する。ただし、必要やむを得ない事情のときは文書等によっ

て意見を聴し、会議に代えることがある。

(顧問)

第10条 本会に顧問を置き、保健学科長及び各専攻主任をもって充てる。

(職員)

第11条 本会に次の職員を置く。

書記若干名 書記は総代会の承認を経て会長が委嘱し、庶務会計の事務に当たる。

(会費)

第12条 本会の会費は、40,000円（3年次編入学生は20,000円）とし、原則として入会時に納入するものとする。
納入した会費は返還しない。

(会計年度)

第13条 本会の会計年度は毎年4月に始まり翌年3月31日に終わる。

(補則)

第14条 本会則の変更は総代会の議決によらなければならない。

附 則

- 1 この会則は平成2年4月12日から施行する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、総代の数は、平成2年度は4名、平成3年度は8名とする。

附 則

- 1 この会則は平成14年12月20日から施行する。
- 2 第6条の規定にかかわらず、総代の数は、平成17年度までは12名とする。

附 則

この会則は平成17年2月1日から施行する。

附 則

この会則は平成22年4月1日から施行する。

後援会だより 通巻24・25号 2016. 4

発行 秋田市本道一丁目1の1
秋田大学医学部保健学科
後援会

☎ (018) 884-6543
